

第1回 阿賀川自然再生モニタリング検討会 議事要旨

開催日時：平成27年11月11日（水）13:25～16:45 [※13:50～15:00 現地視察]

場 所：阿賀川河川事務所 1階会議室

【議事次第】

1. 開会
2. あいさつ
3. 議事（1）
 - ・阿賀川自然再生モニタリング検討会 設立趣旨について
 - ・阿賀川自然再生モニタリング検討会 規約について
 - ・阿賀川自然再生事業について
4. 現地視察
5. 議事（2）
 - ・自然再生計画について
 - ・モニタリング中間報告について
 - ・意見交換
 - ・その他
6. 閉会

【議事】

（1）設立趣旨、規約について

- ・特に意見なし。規約は平成27年11月11日より施行する。
- ・なお、座長には長林委員が選出された。

（2）自然再生事業について

- ・非常に興味深い事業であるので、注目していきたい。
- ・自然再生事業は自然相手なのでいろいろ難しい。計画書の「案」を残しておく、という考え方は良いと思う。

（3）モニタリング調査について

- ・モニタリング調査をしている場所は、人為的に礫河原を再生した箇所と、礫河原再生後に洪水の営力によって影響を受けた箇所がある。河原植生の再生の状況が両者で同じなのか、違いがあるのか。また、礫河原に河原性植生が再生した箇所は、切り下げた地盤に植生再生のきっかけが残っていたのか、上流から種子が流されてきたのか、あるいは風で飛ばされてきたのか、など、植物の生理の観点を踏まえて、河原植生再生のメカニズムが分かるとよい。またそれが読み取れるようにモニタリング調査を実施できるとよい。

- ・モニタリングの指標として通常挙げられやすい水草を入れていないのは、急流河川の特性を踏まえた良い判断だと思う。
- ・計画書では河原面積が指標として挙げられているが、魚類の生息場となる水域については、瀬・淵の数を指標としてはどうか。重要な観点だと思う。近年見られなくなった種、最近になって新たに確認された種、などに着目することも考えられる。また、ウケクチウグイなどはある程度成長すると深い淵を好むようになるので、そういう環境を残していくことも重要だと思う。カジカは礫がないと生息できない魚で、昔からなじみのある種でもあり、大事な魚である。注目する種に加えてもらいたい。
- ・事業により礫河原が再生して、イカルチドリのような礫河原の種が増加したのは間違いないだろう。しかし、「多様な生物の生息環境」ということも事業の目的であることから、礫河原だけでなく、周辺の生息状況も確認してはどうか。
- ・小動物類は、礫河原のような環境に依存するものは特になく、中大型獣や爬虫類もとくに定着して生活しているものはいないだろう。一連の調査の中で確認された小動物についても報告してほしい。
- ・一般の人は「川」といえば堤防に囲まれた空間全体をイメージする。市民向けのパンフレットを作るということだが、昆虫についてはカワラバッタのみに着目するのではなく、河川全体をみていく方がいいのではないか。ヒメシロチョウなど堤防の環境で確認される種もいるので、多様な環境を調査した方がよいのではないか。
- ・川の達人の会として、今年度は 800 名以上の来訪者の対応をしている。今後も継続して活動していくなかで、これらの貴重な調査に期待したい。
- ・いろいろなご意見はあると思うが、今回のモニタリング調査に関しては礫河原に集中してもらって良いと思う。治水上樹木の伐採は必要であるが、それにより生物がどのように変化するかを見極める貴重な機会である。このような大規模な試験は国でなければできないので、貴重なデータが得られる。
- ・環境調査は水辺の国勢調査を継続的に実施しており、結果は河川環境情報図として整理し、把握している。今回の自然再生事業は礫河原の再生が主な目的であり、その事業箇所に限ったモニタリング調査についてご意見を伺うつもりであったが、周辺の一連の環境全体を、俯瞰的に把握することの重要性をご指摘いただいた。

以 上